

2023年3月12日 午前礼拝
「天の御国の生き方⑦」心のきよい者
説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 5:8

8.心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

【説教要約】

マタイ 5:3, 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

マタイ 5:4, 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

マタイ 5:8, 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

マタイ 5:9, 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

マタイ 5:10, 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

①

これまで、山上の説教の「幸いな人」を追ってきました。

今日は8つの内6つ目、「心のきよい者」について見ていきたいと思います。

今日の約束は、「神を見る」という約束です。これは、面と向かって神様を見て、神様と親しい関係を持つということです。

皆様は、神様を見たことがありますか。

イエス様は「世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」と約束してくださいました。また、イエス様を信じた人には御霊がいつも心に宿っていることを知っておられるかと思います。

しかし、実際にこの目では神様を見ることはできません。

もし、いつも自分の隣や目の前にイエス様がおられることが目に見えたなら、どんなに励ましとなり楽しいことだろうかと思うのです。イエス様が身近におられることが分かりやすいからです。

ところが、今日の約束はまさにそのような、「神を見る」すなわち「神様を身近に感じて生きられる」という約束なのです。

②心のきよい者

「きよい人」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか。

なぜ「心の」きよい者と言われているかと言えば、表面的にきよい人たちがいたからです。当時では、パリサイ人や律法学者と呼ばれた人々がその代表として挙げられています。

マタイ 23:23, わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、十分の一もおろそかにしてはいけません。

マタイ 23:24, 目の見えぬ手引きども。ぶよは、こして除くが、らくだは飲み込んでいます。

マタイ 23:27, わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。

マタイ 23:28, そのように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。

パリサイ人は聖書を守ることを人々に教える教師でした。律法学者は、具体的にどう守れば良いのかを示す聖書の学者でした。

しかしイエス様は彼らについて、「偽善」と断言するのです。それは、彼らが教えたり表面的に守っていることと、実際の生活が矛盾していたからです。

ですから、イエス様が言われた「きよい」は、目に見えるきよさではなく心のきよさです。「純粋」あるいは「裏表のない」という意味が強いです。

イギリスの説教者である D・M・ロイドジョーンズという人は、「結婚することの意味」という本の中でこのようなことを言いました。

「キリスト者生活には隔離室があってはならない。しかし、あなたがたが知っているように、それがよくあるのである。…『キリスト者であることはわたしの宗教生活にだけ属するもの、礼拝には関係するが、結婚とは全く関係がないし、仕事とも関係がない、両親との関係についても影響を及ぼすものではない…』

…日曜日の朝が来ると、『わたしは宗教的な人間である』と言って、宗教的なカバンを持って行くが、月曜日の朝になると、『わたしはビジネスマン』などと言って、別のカバンをさげて行く。そうであれば、わたしは幾つかの隔離室を持っていて、そこで生活していることになる」

人は心の中にいくつかの部屋を持っていて、ある部屋にはイエス様が住んでいるけれども、ある部屋は自分だけのものになっているということです。

それはパリサイ人たちのように、口で言っていることと、実際の生活が矛盾する生き方になります。

実に、聖書の教えや信仰生活は、キリストの福音が私たちの生活すべてに影響を及ぼすことを目指しているのです。

もし口でキリストの自己犠牲の愛を宣べ伝えても、自分がその愛を欠片も持っていないのであれば、それは矛盾した生き方になってしまいます。

心が、純粹ではないのです。裏表があるのです。
そこには真っ直ぐな信仰ではなく、神への疑いがあるのかもしれませんが。

信仰について、同じマタイの福音書でこのような出来事が記されています。

マタイ 19:13, そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちが連れて来られた。ところが、弟子たちは彼らをしかった。

マタイ 19:14, しかし、イエスは言われた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」

マタイ 19:15, そして、手を彼らの上に置いてから、そこを去って行かれた。

弟子たちは、イエス様が忙しくされていたのを見て、子どもたちに煩わされてはいけないと配慮したのです。

しかしイエス様はなんとおっしゃいましたか。「邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです」。イエス様は子どもたちを歓迎したのです。

イエス様が「天の御国はこのような者たちの国」とおっしゃったのは、子どもたちが純粹にイエス様を求めて近づいたからです。

子どもは立場が弱く、いつも親に守られている必要があります。身を粉にして仕事をしているわけでもありません。

しかしイエス様は、子どもたちが持っている裏表のない心を評価されたのです。

実に、神様が見ておられる信仰とは、私たちが何を持っているかとか、何ができるかではないのです。

ただ、純粹にイエス様を求めているかどうかなのです。

イエス様は、私たちが一方的に愛し、私たちのためにいのちを捨ててくださいました。

それが分かったから、私たちは信じることができたのです。自分が何も持っていなくても、愛して救い出そうとしておられる方がいる。だから信頼することができたのです。

これは、いつになっても同じことです。私たちが奉仕をしようがメッセージをしようが献金をしようが、神様に対して誇ることはありません。

いつも、神様から与えられているので、すべての営みが送れます。いつまでも、私たちは神様の子どもなのです。親である神様に養われているのです。

ですから、もしイエス様を分離する隔離室のある生活を送っているのならば、初めの信仰に立ち返る必要があるのではないのでしょうか。

誰を、なぜ信じているのか自分に問いかける必要があるのではないのでしょうか。

子どものような純粋な信仰のあるところには、安らぎがあります。

③神を見る

マタイ 5:8, 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

偉大な約束は、もし純粋な心でイエス様を求め、裏表のない生活をするならば、その人は神を見るということです。

神様を身近に感じ、ともに生活できるということです。

苦しむ時も喜びの時も、いつでも一緒に生きていけるということです。どれほど心強い生き方でしょうか。